

公益社団法人 私立大学情報教育協会
被服学・美術デザイングループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会
開催要項

1. 開催趣旨

平成28年度に本協会が調査した「私立大学教員による授業改善調査」によれば、暗記伝達型教育から、参加型学修に転換しようとする教員の姿勢がうかがえ、アクティブ・ラーニングは「主体性の向上」、「考察型学修への転換」、「問題発見・解決体験による実践力の向上」、「主体的に考え行動するコンピテンシーの獲得」に大きな効果があることが半明しています。しかし、取り組みは緒に付いたばかりで、大半は個別授業における講義との組み合わせによる知識の定着・確認が中心となっています。

そこで、本年度のアクティブ・ラーニング対話集会では、質的向上を目指して教育・学修方法の工夫・改善にICTをどのように活用し、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性の向上を図るかを中心に考察を行い、理解の共有を進めていくことにしました。また、学修到達度の質保証を厳格化するICT活用の仕組みが期待されていることもあり、大学間連携による分野別外部評価モデルの検討と、学位プログラム転換の促進にむけて、教員相互が授業情報を共有し工夫・改善を議論する情報環境と、その活用について認識の共有を目指すことにしました。

2. 対話集会のねらい

アクティブ・ラーニングに関する授業情報を共有し、工夫・改善が議論できるよう、本年度は以下の視点で対話集会を展開することにした。

- ① 質的向上を目指すため、ICTを活用して学力の3要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性）を高める教育改善モデルや実践事例を紹介し、事例を踏まえてアクティブ・ラーニングの教育・学修方法を探求します。
- ② 学位プログラムへの転換を促進・理解するため、授業の可視化、学修成果の可視化など授業情報を共有化する中で、授業科目の相互改善に結びつける仕組みとしてのeシラバス、eポートフォリオなどの活用について理解を深めます。
- ③ ディプロマポリシーの達成度を測定する仕組みとして、本協会が提案しているICTを活用した外部評価の必要性とそのため大学の連携コンソーシアムについて理解の共有を図り、教育の質保証を確保するアセスメントモデルの実現に向けた議論を展開します。

3. プログラム

(1) 開催趣旨の説明

(2) アクティブ・ラーニングの話題提供

① 被服学分野

「LMSを用いた被服関係科目間の横断的展開の提案」

関係科目を横断的に学ばせるLMSの仕組みを通じて知識の関連付けを行い、主体的な学びと判断力を促進する多領域コンテンツを共有する取り組みを提案。

椋山女学園大学生生活科学部教授 石原 久代 氏

② 被服学分野

「マルチデバイス対応型被服コンテンツを用いた事前・事後学修による教育効果の検証」

感覚的技能といえるドレーピングを修得させるために、マルチデバイス型コンテンツを用いて、スマートフォンなどで事前・事後学修を行い、教育効果を上げている事例の紹介。

名古屋学芸大学講師 山縣 亮介 氏

③ 美術・デザイン分野

「課題作品のポートフォリオを活用した教育改善の提案」

課題作品をeポートフォリオに瞬時にアップロードし、相互評価を通じて表現の多様性を認識させることを通じて振り返りを行い、学びを発展させる取り組みの提案。

東京家政大学家政学部教授 有馬 十三郎 氏

④ 美術・デザイン分野

「地域のクリエイターや企業、行政と連携した制作体験授業の試み」

地域とコラボレーションすることにより、制作の外部評価を多面的に行い、社会的な通用性を確認する取り組みの紹介。

中京大学工学部教授 宮田 義郎 氏

(3) 意見交流

教育・学修方法の工夫・改善にICTをどのように活用して「学力の3要素」の向上を図るかを中心に実践事例や授業改善の提案について、参加者全員による意見交流を通じて、認識の共有化と解決に向けての気づきを探求します。また、学修到達度の質保証を厳格化するICT活用の仕組みとしての大学間連携による分野別外部評価モデルの検討と、学位プログラムへの転換促進にむけて、教員相互が授業情報を共有し工夫・改善を議論する情報環境とその活用について、以下のテーマで意見交流を行います。

- ① 「学力の3要素」を高めるICTを活用した教育・学修方法の工夫・改善
- ② 授業科目の相互改善を促進するための仕組みとICT活用
- ③ ICTによる外部評価モデルの必要性和仕組み

※ 事務局から学修成果の質保証にむけた到達度の外部評価モデルについて提案します。

4. **参加対象者**：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. **開催日時**：平成29年12月17日(日) 14:00~17:30

6. **会場**：大妻女子大学 (千代田キャンパス本館F棟7階742講義室) 東京都千代田区三番町12

7. **定員**：100名(先着順で受け付けます)

8. **参加費**：無料

9. 参加にあたって

事前に、本協会がまとめた「大学教育への提言—未知の時代を切り拓く教育とICT活用」の1章3.(2)③(学修成果の質保証に向けた到達度の外部評価モデル)、2章(ICTを活用した教育改善モデルの考察：被服学分野、芸術学の美術・デザイン分野)、「私立大学教員の授業改善白書(平成28年度調査結果)」をご覧ください。

<http://www.juce.jp/LINK/teigen.html>

<http://www.juce.jp/LINK/report/hakusho2016/hakusho2016.pdf>

10. 資料について

当日、話題提供資料の縮小版を配布します。準備ができ次第、以下のURLに掲載しますので資料をご覧ください。

<http://www.juce.jp/senmon/active/>

11. その他

話題提供と意見交換の様子(意見交換は背面からの遠景)を個人情報に配慮して収録し、映像は編集後に加盟校に限定してネット上で動画配信します。

また、意見交換による課題の整理は文章で本協会Webサイトに掲載する予定にしております。

12. 参加申込について

別紙の申込書に必要事項とアンケートを記入の上、FAX又はメールで12月13日(水)までにお申し込み下さい。

公益社団法人 私立大学情報教育協会
被服学・美術デザイングループグループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会
参加申込書

※ 必要事項を記入の上、FAX (03-3261-5473) またはメール (bbshifuku@juce.jp) にてお申し込みください。

- ・ご記入いただいた個人情報は、本協会の事務連絡及び委員会活動の案内に限定して利用させていただきます。
- ・データベース管理作業の外部委託の際には目的外の利用や情報の流出がないよう、十分留意いたします。

『参加者記入欄』

※ できるだけ詳しくご記入下さい。後日、収録ビデオ配信のご案内や今後の活動のご案内をさせていただきます。

ふりがな ()

氏名： _____

大学名： _____

所属・役職： _____

E-Mail： _____

アンケート 意見交流の運営に役立てるため、下記についてできるだけ記入ください

(1) 先生がこれまでICTを活用して体験されたアクティブ・ラーニングを振り返っていただき、ICT活用の内容、学生の反応、授業運営の工夫・改善と今後の課題などを紹介ください。

(2) ICTを活用した学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)の内、顕著に効果があったと思われる能力要素の□にレ印を付けてください(複数可)

- 知識 技能 思考力 判断力 表現力
 主体性 多様性 協働性

(3) 授業の可視化、学修成果の可視化を通じて授業科目の相互理解を深めるために、ICTを活用したeシラバス、eポートフォリオを大学で整備し、活用されていますか。

①と②の該当する□にレ印を付けてください。

eシラバス ① 整備状況 (整備している 整備していない) ② 活用状況 (活用している 活用していない)

eポートフォリオ ① 整備状況 (整備している 整備していない) ② 活用状況 (活用している 活用していない)

(4) 授業科目の相互改善を促進するための仕組みとして、大学がサイトを設けて教員同士、職員、学生、有識者などを含めてオープンに議論を行うことの是非を該当する□にレ印を付けてください。必要に回答された場合は、オープンに議論を行う対象者の□にレ印を付けてください。不必要に回答された場合は、主な理由を紹介ください。

必要 (教員同士、 職員、 学生、 有識者) 複数可

不必要 ()